



TITLE:

流星観測者のために注意事項

AUTHOR(S):

CITATION:

流星観測者のために注意事項. 天界 1939, 20(225): 77-77

ISSUE DATE:

1939-12-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/167921>

RIGHT:

カナダの観測時刻であるし、又1940年は同10日18時(世界時)で日本東部が有望である。

又、1933年の時には、地球と彗星の軌道交叉點を、彗星よりも地球が80ケ日だけ早い目に通つたのだが、今年は同じ交叉點を、地球は約136日だけ彗星よりも早く通つたわけで、之れがため流星の出現が見えなかつたのかとも考へられる。次ぎの1940年には地球の方が彗星よりも230日も遅く此の交叉點を通過する筈なので、其の時も、油斷はならない。どうも、彗星軌道の線に沿つて一様に流星が分布してゐるのではなくて、ジャコビーニの如き年齢の若い彗星では、軌道上、あちらこちらと、ムラになつて流星が存在してゐるものらしいから

流星観測者のために注意事項

米國ハリウッド天文臺の流星係 Fletcher Watson 氏が、ジャコビーニ流星群の観測者のために發表した注意事項は下の7ヶ條である：

(1) 輻射點の位置と大きさを出来るだけ正確に決定すること、尚ほ、出来れば、いろいろ輻射點の天頂距離の違つた時に其の輻射點の位置を見ること。

(2) 観測者各自は、其の夜、眼で見える最も微光の星又は光度を記録し置くこと。夜間、観測中にも空氣の状態が變る場合には、星の限界光度を頻繁に記録すること。

(3) 空の或る部分(例へば、北極部とか、天頂部とか)を撰んで、5分時毎に見える流星の数を數へること。

(4) 少なくとも毎時間に一回づゝ、5分時以上にわたつて、各等級の流星数を數へること。

(5) 若し低倍率の双眼鏡、又は彗星搜索機があるならば、此等の器械を用ひて、各等級の流星の数を數へること。

(6) 寫眞器械があれば、其れによつて、流星の経路やスペクトルを撮影すること。方法の詳細は P. A. 41298 (1933), J. R. A. S. Can. 31295 (1937) 及び "Amateur Telescope Making, Advanced" 第544頁 (New York, Scientific American Press 社, 1937年版) 等に P. M. Millmann 氏の文がある。

(7) 観測の報告書には、結果を成るべく詳細に、天空、視野、時刻制、望遠鏡等のことも記すること。重複したことや、不必要な點は、後になつて棄てれば好いのだけれど、省略したことは何としても勝手に作り出せないのだから。

[Nat. 3645]